SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

藁科川沿いの瀬戸川層群：中部支部巡検報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 仁美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025563

藁科川沿いの瀬戸川層群

――中部支部巡検報告――

松　本　仁　美*

静岡市西方を流れる藁科川流域には、主として砂岩、頁岩から成る古第三系の瀬戸川層群が広く分布している。瀬戸川層群は、その構造が複雑なため最近まで四万十層群と一括し、未詳中世界として扱われてきた。小野・徳山（1973）や稲垣・斉藤（1977）らによって、その層序及び構造が明らかにされた。小野・徳山は、瀬戸川層群を独立した1つの褶曲帯であること、層序の違いにより、北方型と南方型の二つに分けられることなどを明らかにした。

今回、中部支部の巡検会として瀬戸川層群の地層を見学することになり、瀬戸川層群上の職場に勤務する者として少なからず興味を持って参加することができた。巡検当日（昭和56年11月22日）は風もなく絶好の日よりで、参加者は30名、車10台という盛況であった。見学は6つの地点で、案内は、兼高靖之会員（静岡末広中）と長島昭会員（静岡女子商高）にお願いした。

1　美の輪の背斜

集合地の慈悲尾火葬場入口のすぐ左手に見える背斜が美輪の背斜である。中央部の黒っぽい部分をとりまくように、白い地層が大きく褶曲している。中央部の黒い部分は、黒色頁岩から成り、白い部分は、かなり泥質な石灰岩より成っている。褶曲軸の方向は、NE 20°から30°で、この褶曲の波長は150 mに達している（稲垣、斉藤）。ここの斜面は北向きのため冬場は日が当らず、夏になると草の茂みにかくれてしまいあまりうまく観察ができない。写真におさめるには、夏至の頃の早朝がよいだろう。

2　見性寺前増田組工事現場の露頭

ここでは、砂岩・黒色頁岩の互層を見学した。入口正面の崖は、かなり急傾斜の地層が折れ曲がり水平な地層と接しているようすが見られる。接する部分の構造はどうなっているのかよくわからいが、無数のクラックや小さな断層があるので、この部分に大きな力が加わり変形したものであることは想像できた。右手に進むと、砂岩・頁岩のきれいな互層が見られる。露頭全体をながめると、向斜構造があることがわかった。褶曲軸はちょうど変形の激しい所あたりにくるようである。

3　富沢記念碑前の砂岩層

富沢部落に入ると、藁科川は部落のある低地を流れないで山を割るように流れている。藁科川は昔、部落に流れこんでいたが、大水のたび被害を受ける部落の人たちが、山を割り人工的に水路を作り、現在のような流れにしたものである。その工事の記念として、小丘の上に記念碑が立っている。ここで見られる岩石は、厚い塊状砂岩である。この砂岩は、瀬戸川層群全域にわたり広く分布し、よい鍵層となっている。

4　赤沢のれんこん

八幡の交差点を右に折れ、1 Km程進み、赤沢の部落を出たカーブの崖の厚い砂岩には、きれいなれんこんが見られる（写真）。見かけ上、左から右方への水の流れがあったことが観察された。露頭す

* 静岡市立安倍口小学校

ぐ横では落石防止のための工事が行われていたが、何とかこの部分だけは保存しておきたいものだ。

5　鍵穴の塩基性凝灰岩

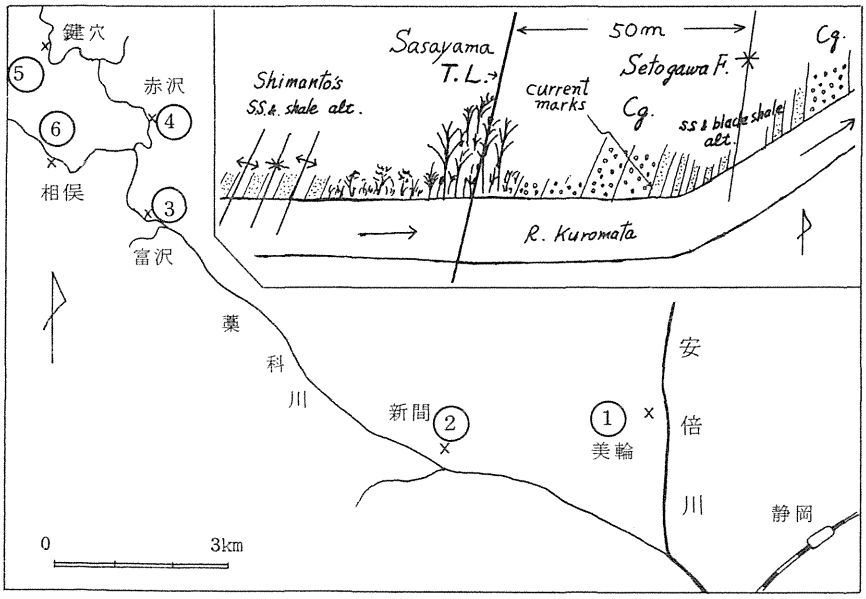
赤沢をさらに進むと、鍵穴の部落に出る。寺をすぎ道が大きくカーブしている所から、下の川原におりて、塩基性角礫凝灰岩の礫を観察した。この凝灰岩は、北方型堆積物のものであり、前述した厚い砂岩層とともに、瀬戸川層群の鍵層になっている。凝灰岩や黒色頁岩の礫に混じって、チャートの礫も観察された。

6　相俣の笹山構造線

凝灰岩礫を観察した後、八幡まで引き返し、国道362号線を進むと相俣の部落に出る。バス停先で川原におり笹山構造線を観察しようということであった。川原におりた地点には、瀬戸川層の最下部にあたる基底礫岩が露出していた。この礫岩付近に笹山構造線が走っていると、説明を受けたことがあるという話であったが、構造線があるとされる左右の岩質を比べても差がない。何かの勘ちがいではないか、それでは付近を調べようということになって、参加者全員で構造線を探すことになった。そこで、その地点から、50 m程上ると、そこには、四万十層群と思われる砂岩と頁岩の互層が露出していた。この互層と先ほどの礫岩の間に笹山構造線があるはずである。しかし、その間の露出は悪く、構造線は観察することができなかった。たぶん竹やぶのあるあたりに構造線が走っているのだろうと納得して今回の巡検を終えた。

参考文献

1. 土隆一編（1974）　静岡県の地質
2. 稲垣・斉藤（1977）　瀬戸川層群の地質、静岡地学第34号、P26～31



露頭位置図および相俣バス停先⑥の笹山構造線付近のスケッチ

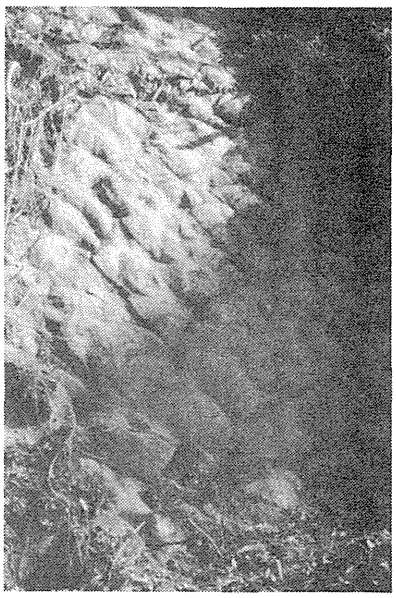


写真　赤沢④のれんこん